

Q 様々な学校データの分析を学校経営に生かしたいのですが、どのような方法がありますか。

A 校長として積極的な学校経営を進めるために、具体的なデータの把握・活用はとても大切なことです。確実なデータに基づいて、改善を要するもの、維持・継続するもの、今後、一層取り組むべきものを明確にし、学校経営を進めることが求められます。

学校及び児童生徒の状況を示すデータには、「学力・学習状況調査」（国）の結果や学校評価アンケート結果、第三者評価結果等があります。地域の人々から寄せられる客観的なご意見等を含めても良いと思います。また、自己評価結果や分掌ごとに行っている総括等も学校経営に生かすための大切な資料となります。

先ず、国が行う学力・学習状況調査は、当該年度の小学6年生、中学3年生の学力や日常の学習や生活の状況をつかむことができます。学力調査からは、実施学年における学力だけでなく経年変化から学校としての課題も知ることができます。さらに、領域や学年としての課題を知ることができます。学校としての課題を明らかにして、授業改善を行うことはとても大切なことです。

質問紙調査からは、質問のカテゴリー別の結果をまとめることで児童生徒集団の意識や生活の傾向が見えてきます。また、家庭での生活、規範意識などの他、学習姿勢、授業活用など、学校として取り組むべき課題と捉えることができるものも多く得られます。たとえば、授業の始めにめあてを示すこと、授業の終わりに振り返りを行うことについての質問に対して、児童生徒の回答と教員の回答との間に乖離が見られることもあります。これらのことから、教員の授業づくりの課題として取り上げることも考えられます。

もう一つの大切なデータとして学校評価結果があります。学校評価は、教育活動や学校経営の改善のために行うものですから、その結果は当然、次年度の取組に反映されなければなりません。特に学校関係者評価結果は、より客観的な評価として扱われるべきものです。学校評価において数値として表れたものから学校改善に必要なものを取り出し、そこに目標値を掲げたり、学校評価での具体的な指摘事項を受けて目標を設定したりすることが大切です。また、数値、データでは示すことができないものであっても、学校の特色として継続・発展させたいものもたくさんあります。これらの学校の良さについても、埋もれさせず、今後の学校経営に生かされるよう、言葉や文字により共有し、確認しておくことが大切でしょう。

校種

小学校・中学校